

すっきり生活

スニーカー通勤着こなし術

日常的に歩くことで運動不足を解消しよう——。スニーカー通勤を取り入れる企業が増えてきた。カジュアルな靴にビジネスウエアをどう合わせればいいのか。着こなし術を探った。

「隅田川沿いの桜がきれいで花見ついでに遠回りしてきたよ」。3月末の朝、東京都墨田区にあるアサヒ飲料本社に大江田知十さんと吉川徹さんが出勤してきた。同社は1月から社員の健康増進へ全社あげて通勤時と仕事中にスニーカー着用を認めた。ダイエツトのため1日1万歩を歩く大江田さんは白、吉川さんは黒のスニーカーだ。

服装を見ると、大江田さんはグレーのジャケットに細身の紺のチノパン。吉川さんは紺のスーツの上下でポリエステル素材。これなら長く歩いてもシワになりにくい。歩きやすいようにとリュック姿だ。二人ともスニーカー通勤が始まってから同僚の装いを参考にしつつ、今の服装に落ち着いた。全体の印象はすっきりとしてフォーマルな感じを漂わせている。違和感がないようにみえる。

スタイリストの高野いせこさんは「男性がスニーカーにスラックスやパンツを合わせるなら細身が基本。できれば丈を短くした方がいい」と話す。革靴と異なりスニーカーで通常のスラックスを着用すると、足元がもたついた感じになるからだ。特に白のスニーカーの場合に気をつけてほしいという。高野さんは「足元をスニーカーにする際の最大のポイントは、清潔感と全身のバランス」と強調する。

スニーカーに合う紳士服やリュック、小物など、対応商品を取りそろえる高島屋新宿店。セールスマネジャーの古谷優子さんは「スニーカーを履きこなす自信がない人は、靴の上部が黒の革素材で、靴底がゴムのウオーキングシューズから取り入れたらいい」と助言する。黒のほかグレーとネイビーも落ち着いた色なので、これらのスニーカーだったら「入門編」としていいかもしれない。

その上で古谷さんは「スニーカーの色は2色まで。上が青で底が白、靴ひもが赤など3色だと派手になり、オンビジネスには向かない」と注意する。スニーカー通勤はクルビスに続けと国が進める運動だが、カジュアルな雰囲気ですべての会社や事業所が受け入れているわけではない。気になる場合は、革靴を会社のロッカーに常備しておくのも手だ。

洋服と同系色 スカートは長く

女性の装いはどうだろう。損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険の経営企画部で働く山梨稚菜さんは、紺のスニーカーで出社するのが基本。これに紺のジャケット、インナーは白いブラウス、黒のスカートをコーディネートすることが多い。

経営企画部には取引先の社長や経営幹部が訪れる。「スニーカーを洋服と同系色にすれば落ち着いた感じになり、取引先とすれ違っても失礼な格好にならないはず」と山梨さん。スカートも短めにするとスニーカーとの相乗効果で子供っぽく見られてしまうので、長めのものを身にまう。

デザインより 履きやすさを重視

東京都内のビジネス街を歩いていると、キャリアを重ねた中高年の女性の中にちらほら、スニーカーを履いた人がいる。多くは紺や黒のブラウスと、裾の広いベージュのワイドパンツに合わせた。

スニーカーは靴ひもがなかったり靴底が薄いフラット仕様だったりする。靴の自己主張を抑えているようだ。

デザインより 履きやすさを重視

東京都内のビジネス街を歩いていると、キャリアを重ねた中高年の女性の中にちらほら、スニーカーを履いた人がいる。多くは紺や黒のブラウスと、裾の広いベージュのワイドパンツに合わせた。

スニーカーは靴ひもがなかったり靴底が薄いフラット仕様だったりする。靴の自己主張を抑えているようだ。

橋本さんは男性も女性もワランク上のパンツの着こなし術を提案する。「スラックス同様、チノパンやワイドパンツなどのカジュアルパンツも縦の折り目を付けておきたい。ビジネスパーソンらしいきちんとした印象を保ち、印象度が上がる」

春本番。これからウオーキングに気持ちよい季節だ。スニーカー通勤も弾むだろう。ビジネスシーンの延長であることを念頭に置いて、街中や会社の中を歩きたい。

(保田井建)